

なぜ？なぜ？先生

～みんなの不思議～



「願がんに以此し功德くどく 平等びようどう施せ一切いっさい」
つてなあに？

今月のこの言葉は、「幼児のおつとめ」の「回向えこう」の前半部分です。「回向」とは、仏教では「自分自身の積み重ねた善根功德ぜんこんくどくを相手にふりむけて与えること」ですが、「幼児のおつとめ」では、園で「おつとめ」をおこない、阿弥陀さまの徳をほめ讃えることのできた喜びをみんなで分かち合う行為をさせています。

今月の言葉は、「願はくはこの功德をもつて、平等に一切に施し」と読みます。「この功德」というのは、「私が阿弥陀さまの教えに出会い、その願いのほたらきによって、必ずお浄土に生まれて仏さまにさせていただけるという喜びのこと」です。また、「平等に一切に施し」とは、その喜びをすべての人々に語り伝えたいということです。

ところで、私たちにとって「生きる」とはどのようなことでしょうか。人として生まれ、人と人との間を生きていることから「人間」と呼ばれていることを踏まえると、それは具体的には「誰かと心を通わせること」なのではないかと思います。

嬉しいことがあったら、その喜びを誰かに伝えたくありませんか。また、つらいことや悲しいことがあった時、「あの人に聞いてもらいたい」と思ったりすることはありませんか。

とても嬉しいことがあっても、それを語れる人が一人もいなければ、かえってむなしく寂しい気持ちになるかもしれません。一方、どれほどつらく悲しいことがあったとしても、その苦しい胸の内をただ黙って聞いてくれる誰かがいるだけで、私たちは決してその事実につぶされてしまうことはないのだと思います。

子どもたちには、「願がんに以此し功德くどく 平等びようどう施せ一切いっさいというのは、みんなで阿弥陀さまにお参りできたことを一緒に喜ぶことだよ」と教えてください。